

2023年10月期 株主・個人投資家向け説明

株式会社モルフォ
(東証グロース:3653)

2024.2.28



本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものです。当該情報および仮説に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等により、実際の業績等は本資料記載の内容とは異なる場合がございます。

目次

- Vision
- 会社概要
- グループ拠点
- 中期経営計画 Vision2024
- 事業領域 / 事業戦略
 - スマートデバイス
 - 車載モビリティ
 - DX
- 株主様からのご質問への回答

Vision



Rise above what we see, to realize what we feel

-人間の目を拡張し、感動に満ちた世界を実現しよう-



代表取締役社長
平賀 督基
Masaki Hilaga

2004

創業

2011

東証マザーズ上場
(現グロース市場)

151

グループ社員

5カ国

海外拠点

135

特許

54%

海外売上比率

23.8億

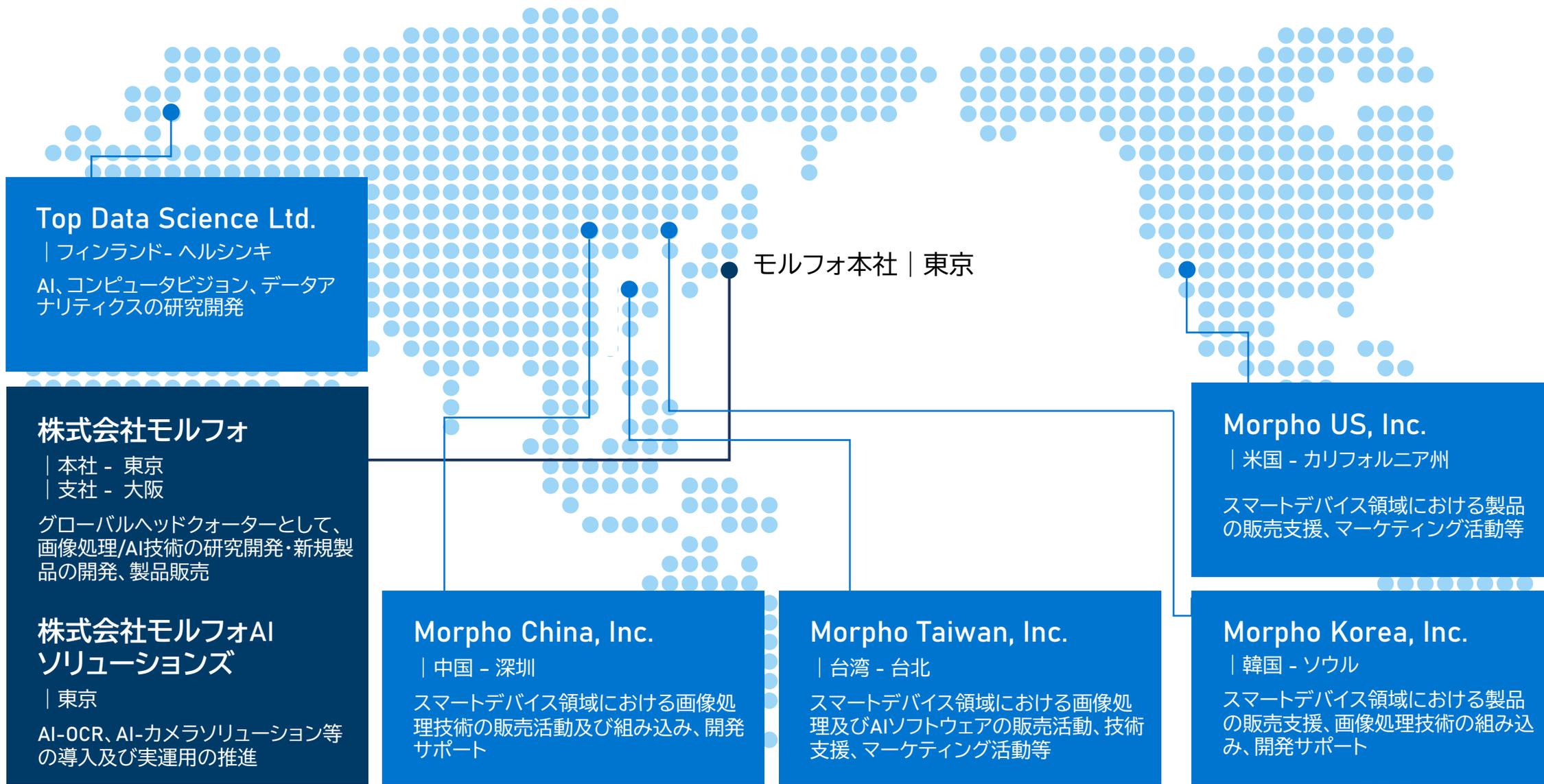
連結売上高

19.2%

研究開発費率
(売上高比)

画像処理およびAI(人工知能)技術の研究・製品開発。
スマートデバイス・車載モビリティ・DX向けソフトウェア事業
をグローバルに展開。

2023年10月期



中期経営計画 Vision2024

ビジョン

Rise above what we see, to realize what we feel
—人間の目を拡張し、感動に満ちた世界を実現しよう—

経営目標

イノベーションを通じて顧客価値を最大化する

基本戦略

特定セグメントに経営資源を集中し、競合との差別化を実現することにより競争に勝つ

事業領域 / 事業戦略

先進のイメージング・テクノロジーにより、利便性・安心安全・生産性の向上に貢献する



中期経営計画



スマート デバイス

1. 中華圏スマートフォンOEMのシェア拡大に伴い、中国拠点を強化
2. 主要スマートフォンチップセットメーカーとの関係強化



車載 モビリティ

1. 既存顧客との連携継続・強化
2. 自社商品によるロイヤリティビジネス事業化
3. ミックウェア社との戦略的提携によるビジネス創出



DX

1. 画像認識AI技術を用いたDX向けビジネス拡大
2. 監視カメラ画像解析AIで安心安全なまちづくりに貢献

20期(2023年10月期)振り返り

1. 中国拠点を中心に選択と集中により売上拡大、また販売力強化し顧客ニーズを即時把握・本社と連携し重点開発。
2. スマートフォン・PCチップセットメーカーとの関係強化。パートナー活用も功を奏し、PC OEMでの採用も進捗。

1. 既存顧客との連携は順調に進捗。新規顧客の案件が拡大中
2. ドライバモニタリング等の案件が進行中
3. 道路劣化検診サービスの構築に貢献

1. NDLOCRを活用した市販ソフト「FROG AI-OCR」の提供。自治体、大学、図書館、BPO企業での利用拡大
2. AIカメラアプリ「見まもりAI:Duranta」の提供。デジタル庁事業を軸に、アナログメーター読み取り機能開発案件を受注

事業戦略 — スマートデバイス —

01

選択と集中による効率的な売上・利益最大化

競争優位の商品を重点的に強化・顧客ニーズを即時把握し高確度の商談へ集中

02

主要スマートフォン・PCチップセットメーカーとの関係強化

未公開技術情報へのアクセス・ソリューション最適化・共同マーケティング

03

戦略的パートナーシップを通じた事業拡大

商品ラインナップ強化・開発リソースの最適化による効率化・新規顧客開拓

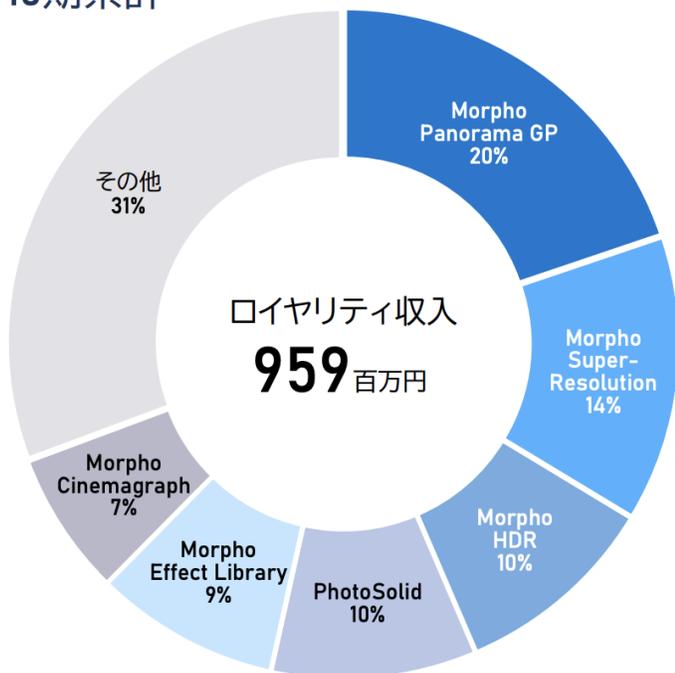
選択と集中による効率的な売上・利益最大化

施策の
ポイント

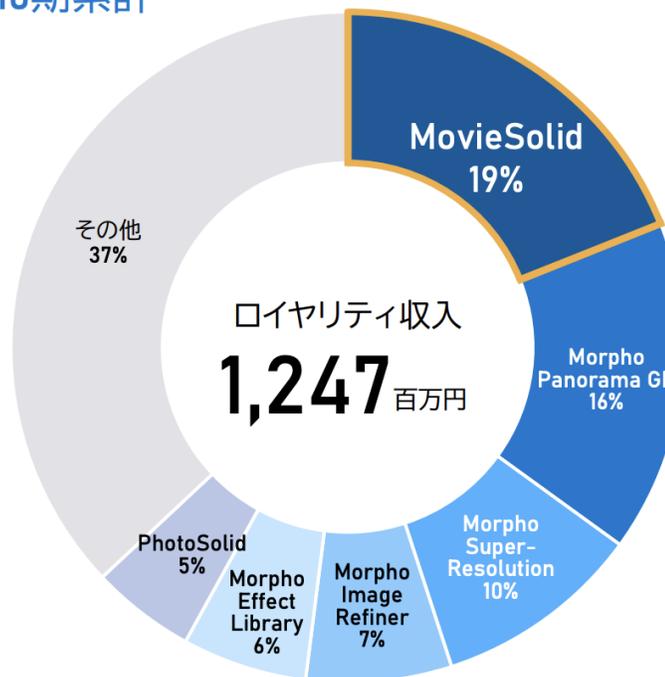
- 競合他社に対して競争優位の商品を中心に強化
- 顧客ニーズを即時把握し高確度の商談へリソースを集中

動画手ぶれ補正機能(製品名: MovieSolid)は中華圏OEMから高く評価されシェア拡大中

2022/10期累計



2023/10期累計



主要スマートフォン・PCチップセットメーカーとの関係強化

施策のポイント

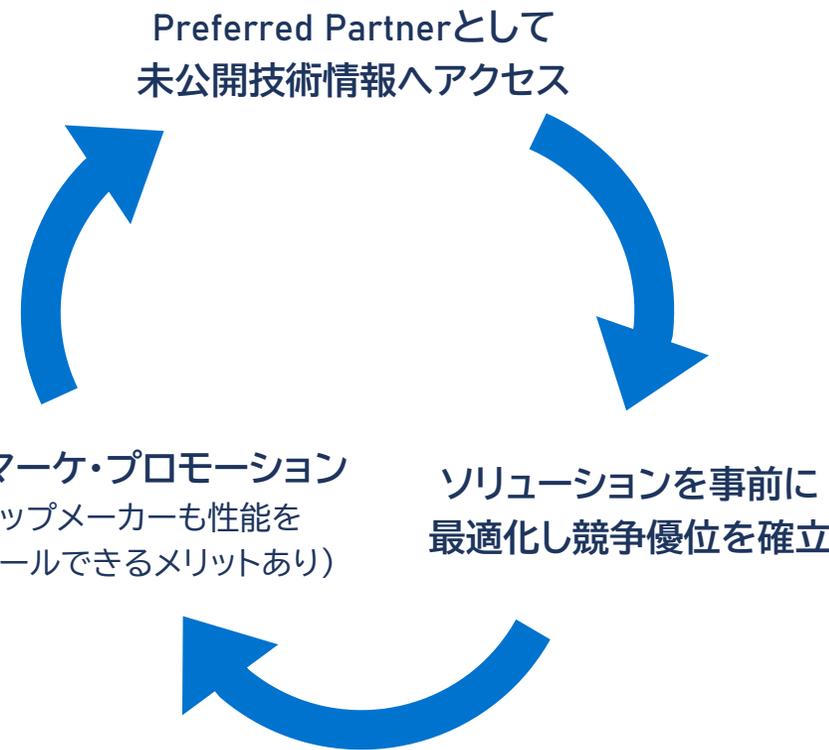
- パートナープログラムを通じた未公開技術情報へのアクセス
- ソリューション最適化(処理速度・消費電力等)
- 共同マーケティング・プロモーション



MediaTek社スマートフォン向けSoC発表イベントでの内容をSNSで紹介



Intel PRC PC Client Software Innovation Summit
左:インテルによるモルフォの技術紹介の様子
右:技術デモの展示



MorphoとチップセットメーカーはWIN-WINの関係

戦略的パートナーシップを通じた事業拡大

施策の
ポイント

- 商品ラインナップ強化による競争優位性の確保
- 開発リソースの最適化による効率化
- 新規顧客・チャネル開拓

当社ビジネス領域における技術は多様化・細分化をとめない急速に発展しており、業界をまたがった競争が激化するなか、顧客によるベンダー選定は厳しさを増しており、開発効率化と幅をもった提案力を生み出すパートナーシップが重要となる。

	課題認識	当社視点のパートナー活用施策	想定される効果
商品	<ul style="list-style-type: none"> 顧客要望が肥大化する一方、あらゆる領域の商材を自社でまかなうことは困難 	<ul style="list-style-type: none"> 当社の技術ドメイン外の商材(音声技術など)は技術パートナーから調達し、ソリューションのポートフォリオ拡充。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案の幅が広がり、顧客満足度向上 ソリューションとしての競争優位性向上
開発	<ul style="list-style-type: none"> 技術の高度化に加えて、顧客要望が多岐にわたり、開発のリソースがボトルネック 	<ul style="list-style-type: none"> 差別化による競争優位の元となるアルゴリズム開発に注力し、個々のプラットフォーム対応は開発パートナーを積極活用 	<ul style="list-style-type: none"> 開発効率の改善と商品の競争優位性確保
販売	<ul style="list-style-type: none"> 新規開拓にともなう業界の参入障壁(顧客との関係構築・ビジネスモデルの違いなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客と近い関係を持つ営業支援パートナーの活用 顧客との既存ビジネスをもつ技術パートナーの商流にのせて当社ソリューションを販売 	<ul style="list-style-type: none"> 新規顧客開拓にかかる時間を短縮 新規チャネルでの販売による売上増加

事業戦略 — 車載モビリティ —

01

既存顧客との連携継続・強化

共同研究開発を継続・拡大

02

自社商品によるロイヤリティビジネス事業化

独自商品開発および車載SoCメーカーとのパートナー連携

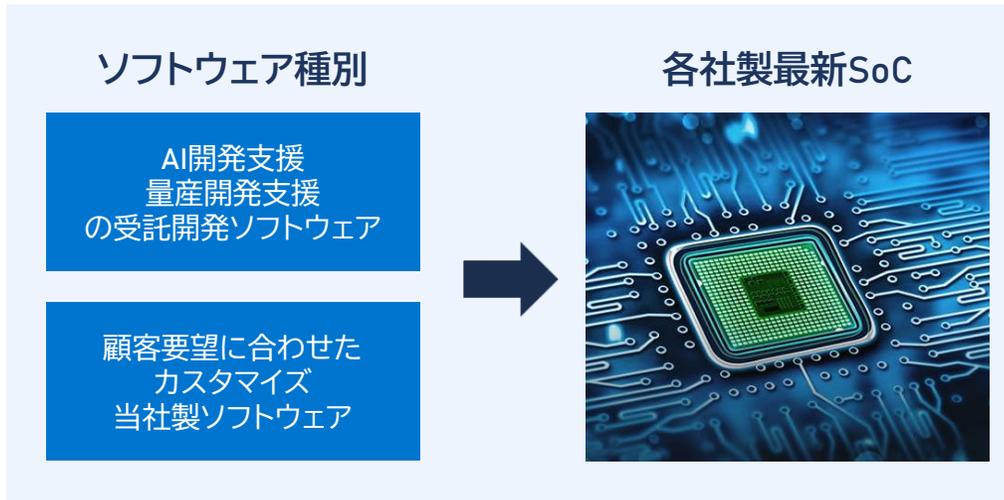
03

戦略的提携によるビジネス創出

資本業務提携締結等を活用した、既存ビジネスの付加価値向上と新規ビジネス協創を推進

当社 様々な組み込み先への対応力

SoCのアクセラレーター活用による低消費電力化含む

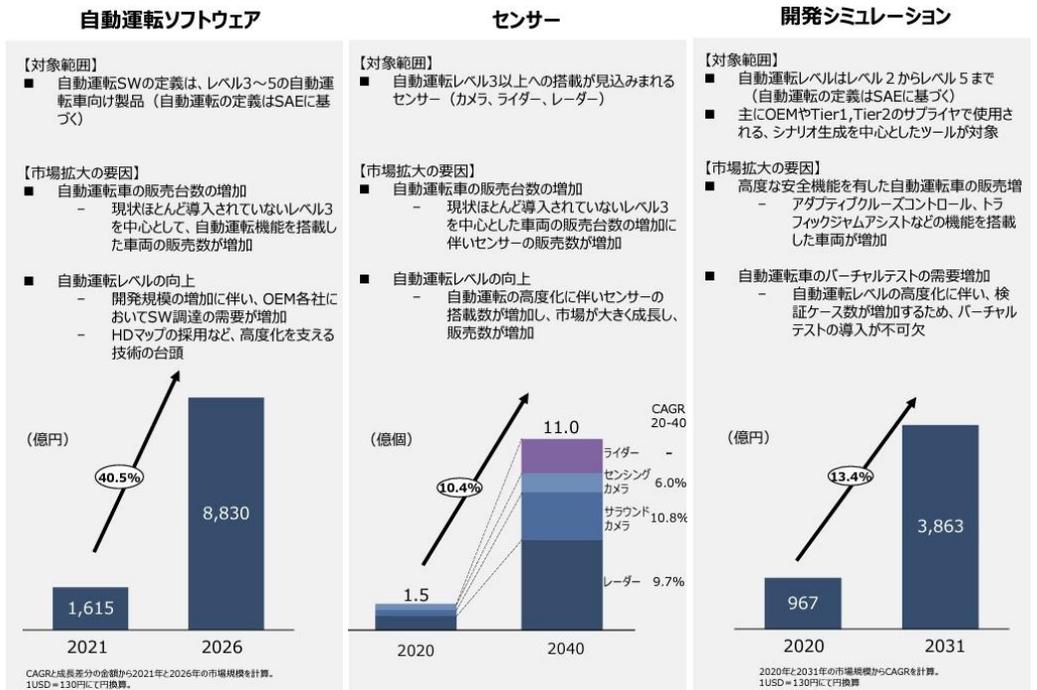


当社エンジニアの強み

1. 強固な開発チーム連携体制により、他社ではできない「短期間での開発」「ソリューション提供力」
2. 大手企業R&Dや国立機関から信頼・委託される研究開発力 (CVPR、ICML国際学会へ参加)
3. 様々なSoC(半導体プロセッサ)への組み込み対応力
4. 画像処理技術とAI技術を組合わせた精度向上力

市場 自動運転ソフトウェア+センサー増

精度向上に多くの画像処理技術とAIを利用



出典: 経済産業省ADL

市場の変化に当社の強みが益々活かせる状況へ

1. 自動運転ソフトウェア開発投資増
2. 最新の半導体センサー利用数増
3. 開発シミュレーションも多くのAIを用いる傾向



幅広いAI技術を、用途に合わせてトータルに提供



ミックウェア社 | 足立区での実証実験(他案件でも協業推進中)

- ミックウェア社の録画データ流通サービス「Mvcube™」に、AIによる道路の不具合検知技術を提供
- 2022年11月より足立区において、ミックウェア社の「Mvcube™」を活用した道路監視の実証実験が開始
- 足立区を走行するゴミ収集車の通信型ドライブレコーダーで録画されたデータはクラウドに収集され、モルフォのAI解析技術により、道路の不具合を検知します。



ミックウェアに納品した、道路のひび割れ、白線のカスレを自動検知するソフトウェア

事業戦略 —DX—

01

AI-OCR技術を用いたビジネス拡大

文書系OCRを起点に、デジタルアーカイブ、BPOビジネスへ展開

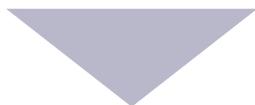
02

監視カメラ画像解析AIで安心安全なまちづくりに貢献

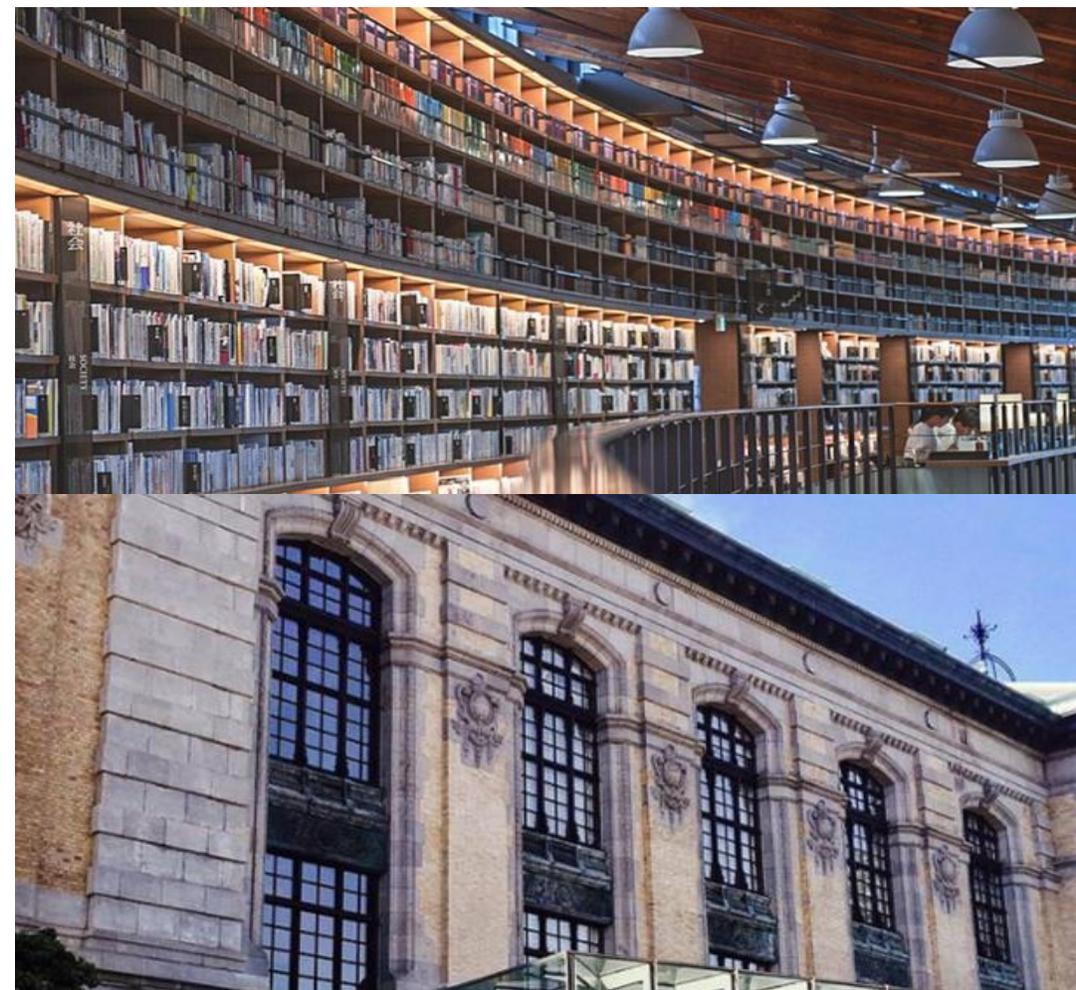
AIカメラによるバリアフリーの実現、駅の安全管理、リモートでのメンテナンス業務の効率化

明治期～昭和期の書籍画像(2億枚)のテキスト化処理の研究開発

国立国会図書館デジタルアーカイブ上で提供される資料画像について、今後本文テキストデータの作成を行えるように当社の保有する最新AI技術・画像処理技術を取り入れたOCR処理プログラム(NDLOCR)の研究開発を実施



歴史的資料の全文テキスト検索を実現へ



NDLOCRを活用した市販ソフト「FROG AI-OCR」を2022年7月より提供開始。
WEBアプリとして提供することで、一般のユーザーでも手軽にOCRを試すことが可能に。

活用事例

- 滋賀県立図書館：視覚障害者向けの読み上げ用のテキスト生成での活用
- 順天堂大学：武道史研究における近代史料(1868-1945)の計量テキスト分析での活用
- ボローニャ大学：国際文化比較研究における日本の歴史的文書の解読に向けた活用
- 沖縄県豊見城市：公文書等のデジタル化による全文テキスト検索に向けた活用



詳細については、下記のプレスリリースをご参照ください。

2022年6月14日発表「[世界初\(注1\)近代書籍対応の市販AI-OCRソフト「FROG AI-OCR」新発売](#)」

2022年11月16日発表「[モルフォAIソリューションズ「FROG AI-OCR」\(注1\)を 滋賀県立図書館に提供開始](#)」

2023年2月14日発表「[モルフォAIソリューションズ、順天堂大学と「FROG AI-OCR」を活用した武道史研究を開始](#)」

2023年7月27日発表「[モルフォAIソリューションズ、EU資金の研究プログラムNONWESTLITに参画](#)」

2023年10月3日発表「[モルフォAIソリューションズ、沖縄県豊見城市に「FROG AI-OCR」を導入開始](#)」



監視カメラの画像を解析、介助が必要な人をリアルタイムで検出

- シチュエーション： ショッピングモール、駅、街角の安全管理
- 活用例： 運用センター監視・駆けつけ、駅・公共施設での動線案内・危険の回避

車いすの人



白杖で歩く人



倒れている人



▶▶ パナソニックコネクト社を通じ、提供拡大の取り組み開始



政府の実証事業を起点に、遠隔でのアナログメーター読み取りを推進

- シチュエーション: 水力発電所での巡視業務の効率化
- 対象メーター: ダイヤル温度計、ダイヤル圧力計、油面計、棒状温度計

みまもりAI:Duranta(モルフォAIソリューションズ)



アナログメーター読み取り(Top Data Science)



▶▶ 今後、カメラ会社とともに、提供拡大の取り組み開始

詳細については、下記のプレスリリースをご参照ください。

2023年12月4日発表「[モルフォAIソリューションズがデジタル庁事業に採択](#)」

株主様からのご質問への回答

2024年10月期の 黒字化予想の要因と継続性について

中国でのスマートフォン向け技術の 需要増加の要因について

車載モビリティ、DX事業の今後の発展性について

当社技術の差別化要因について

Appendix

社名	株式会社モルフォ (Morpho, Inc.)
設立年月日	2004年5月26日
資本金	1,783,958千円 (2023年10月末)
事業内容	画像処理およびAI(人工知能)技術の研究・製品開発。 スマートフォン・半導体・車載・産業IoT向けソフトウェア事業をグローバルに展開。
所在地	東京都千代田区神田錦町二丁目2番1号
役員	代表取締役社長 平 賀 督 基
	取 締 役 西 山 貴 之
	取 締 役 (社外) 各 務 茂 夫
	取 締 役 (社外) 永 田 清 人
	取 締 役 (社外) 秋 山 ゆ か り
	常 勤 監 査 役 (社外) 根 岸 秀 忠
	監 査 役 (社外) 上 原 将 人 (公認会計士)
	監 査 役 (社外) 黒 住 哲 理
従業員数	連結151名 単体89名 (2023年10月末)
主要株主	平賀 督基、株式会社デンソー、株式会社ミックウェア
主要取引銀行	三菱UFJ銀行、みずほ銀行
上場金融商品取引所	東京証券取引所グロース市場(証券コード:3653)(上場日:2011年7月21日)

2004年05月	株式会社モルフォ設立
2004年09月	第三者割当増資を実施、株式会社東京大学エッジキャピタルから出資を受ける
2004年10月	「PhotoSolid®」(静止画手ブレ補正技術)、「MovieSolid®」(動画手ブレ補正技術)を発表
2007年10月	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモと業務資本提携
2011年07月	東京証券取引所マザーズ市場に株式上場
2012年02月	Morpho US, Inc.設立
2013年10月	Morpho Korea, Inc.設立
2015年12月	株式会社デンソーと資本業務提携
2017年04月	株式会社エスアールエルと業務提携
2017年11月	みらかホールディングス株式会社(現 H.U.グループホールディングス)と資本提携
2017年12月	世界最速級のディープラーニング推論エンジン「SoftNeuro®」を製品化
2018年06月	Morpho China, Inc.設立
2018年10月	フィンランドAI開発企業 Top Data Science, Ltd. 子会社化
2019年11月	PUX株式会社を持分法適用関連会社化
2019年12月	株式会社モルフォAIソリューションズ設立
2020年06月	Morpho Taiwan, Inc.設立
2021年09月	株式会社ミックウェアと資本業務提携
2022年04月	株式会社デンソーと共同研究開発した高度運転支援システム向け画像認識技術が「Global Safety Package3」に採用
2022年06月	株式会社モルフォAIソリューションズが、世界初・近代書籍対応の市販AI-OCRソフト「FROG AI-OCR」を発売
2022年11月	東京大学、東北大学、神戸大学が推進するスーパーコンピューター「富岳」上での深層学習を用いたシミュレーションの高速化に、ディープラーニング推論エンジン「SoftNeuro®」を提供
2023年06月	株式会社デンソーのAI運転診断システム向けの動画解析AI技術開発を支援

画像技術・AI技術を駆使したソフトウェア製品

画像処理製品

静止画向け電子式手ブレ補正・ノイズ除去技術

動画向け電子式手ブレ補正・高速再生技術

ノイズ除去技術 ダイナミックレンジ補正技術

複数枚画像合成によるダイナミックレンジ補正技術

超解像技術 高解像度パノラマ画像生成技術 など

AIを活用したノイズ除去



AI 製品

ディープラーニング推論エンジン

自動画像領域分割&レタッチ技術

二眼カメラ向けぼかし画像生成技術

単眼背景ぼかし技術

姿勢推定技術

物体検出技術

物体追跡技術

混雑状況解析技術

AI学習環境 など

ビデオ会議向け背景ぼかし





画像技術に関する研究・
開発力



エッジデバイス向けの
ソフトウェア開発ノウハウ



グローバルな事業基盤

エッジAIの国際業界団体のアワードを3年連続で受賞
Semantic Filteringが「ベストAIソフトウェア／アルゴリズム賞」受賞



Qualcomm社との協業

Qualcomm社 Tech Summit 2020
Snapdragon適応技術として採用

モルフォ技術が利用されるフィールドは市場変遷とともに拡大へ

市場の変遷

モルフォの技術

イメージング・テクノロジー 1.0

フィーチャーフォン時代

携帯電話に撮影機能が搭載

- カメラ付き携帯電話
- インターネット通信機能

- 手ブレ補正機能
- パノラマ画像生成技術
- 動き検出技術

イメージング・テクノロジー 2.0

カメラ搭載デバイスの高機能化

カメラ搭載デバイスの高機能化

- iPhone/Android/タブレット端末の普及
- スマートフォンの大画面化
- カメラの高解像度化
- デジタルカメラからスマートフォンへのシフト
- 通信機能の高速化
- SNSの普及

- 高解像度パノラマ画像生成技術
- 超解像度技術
- ダイナミックレンジ補正技術
- 画像エフェクトフィルタライブラリ
- ノイズ除去
- フレーム補間技術
- 動画高速再生技術

イメージング・テクノロジー 3.0

カメラ×AI時代

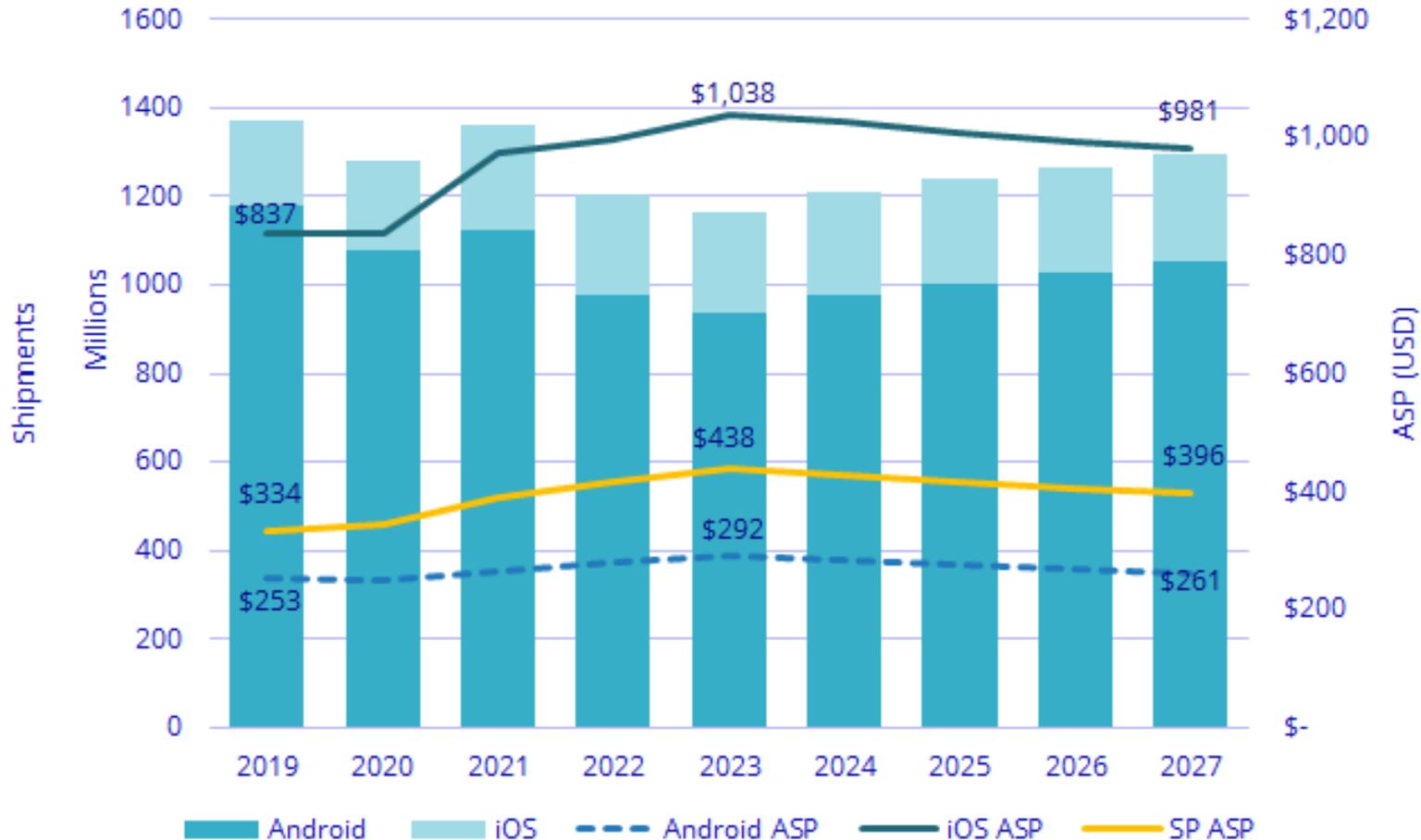
エッジAIニーズの高まり
▶▶▶デバイスの演算処理能力が向上

- 車載機器
- 自立走行機器
- ドローン
- ロボット
- エッジコンピューティングカメラ
- ファクトリーオートメーション
- デジタルサイネージ
- 5Gによる利用用途の多様化
- スマートフォンの多眼化

- AI関連技術**
 - ディープラーニング推論エンジン
 - 混雑状況解析技術
 - 人影検出技術
 - 自動画像領域分割&レタッチ技術
 - 特定物体認識技術
- AI-OCR**
 - 道路不具合検知技術
 - 自動車向けAIソリューション
- 3D関連技術**
 - デュアルカメラ向け技術
 - 全天球カメラ向け技術

2023年の出荷台数は前年比ベースで減少だが、2027年に向けて増加を見込む

世界スマートフォン出荷台数



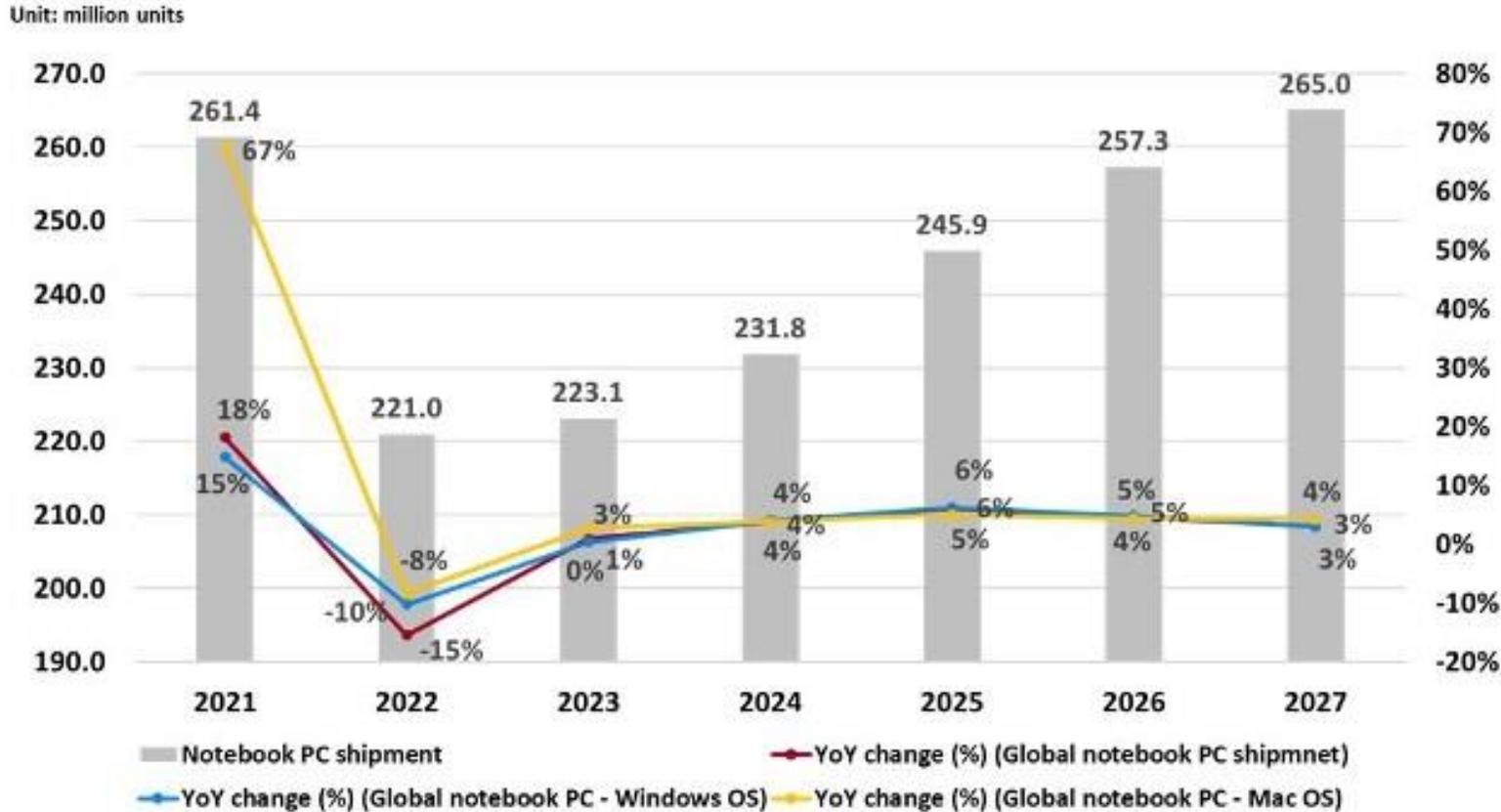
スマートフォン市場は半導体の需給逼迫による影響が一段落し、2024年から次第に改善するとの観測。

新興国を中心に市場が広がりを見せ始めており、この地域に強みをもつメーカーが勢力を拡大中。

出典: IDC Worldwide Smartphone Forecast, 2023Q3

リモートワークによる特需は収束するも、2024年以降の出荷台数は増加を見込む

世界ノートPC出荷台数



COVIDにより生じたリモートワークによる需要は一段落したが半導体の需給逼迫による在庫調整が落ち着くとともに、2024年からの本格的なAI PC普及もあいまって、出荷台数は今後増加が見込まれる。

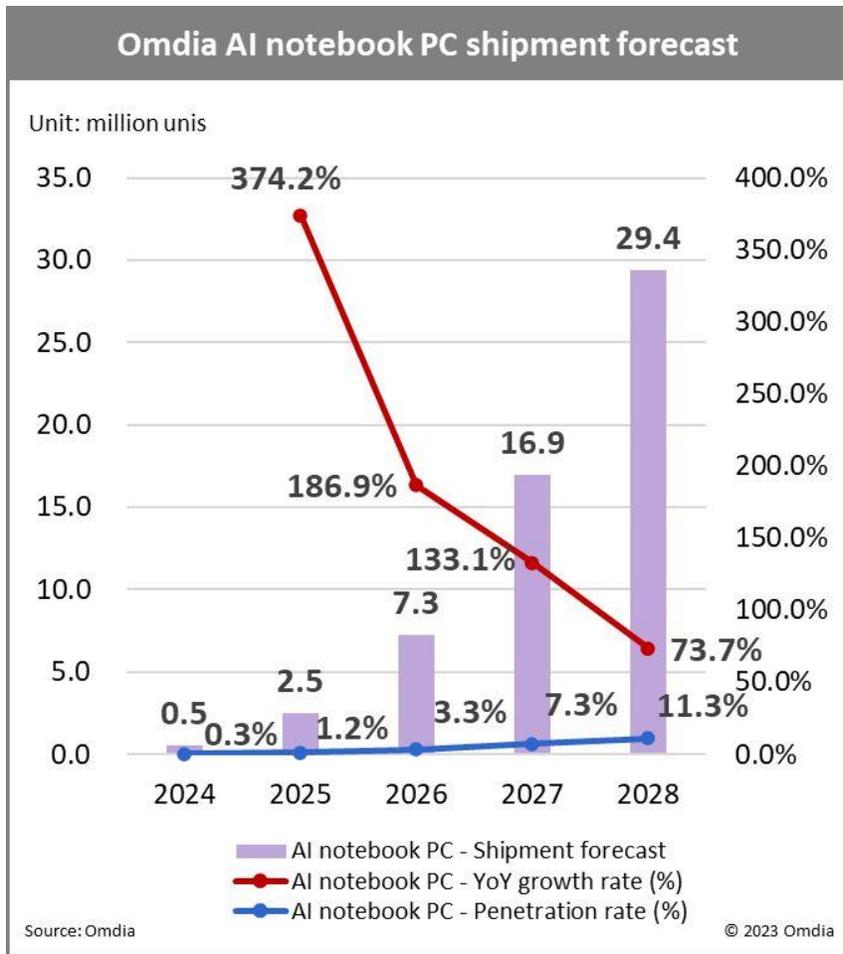
Source: Omdia

出典: Omdia Global notebook PC and YoY change (2021 - 2027)

© 2022 Omdia

2024年はAI PC普及元年となり、モルフォの事業機会が広がる

世界ノートAI PC出荷台数

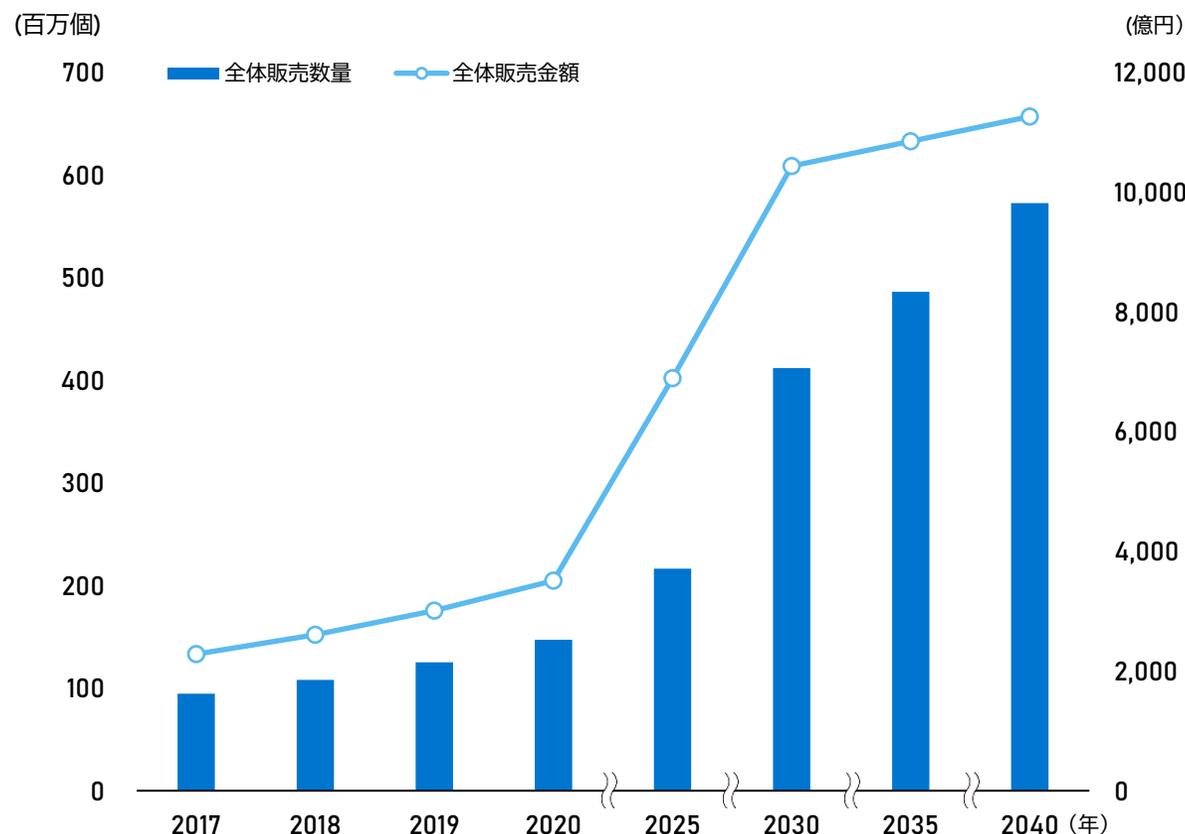


2024年からIntel, AMD, Qualcomm各社からAIプロセッサ(NPU: Neural Processing Unit)を搭載したPCの本格的な普及が見込まれている。

スマートフォン事業におけるAIプロセッサ向けソリューション最適化の経験・知見をノートPC向けに活かすことで事業拡大を目指せる環境にある。

ADASカメラ及びモニタリングカメラ機能として市場継続拡大

市場規模



出典:富士カメラ総研

市場概要(予測)

車載カメラ

市場規模(2025年予測)

数量	2.2億台	2.47倍 (2020年→2025年)
金額	6,900億円	2.96倍 (2020年→2025年)

カメラソフト市場をハードの20%と想定した場合:1,380億円

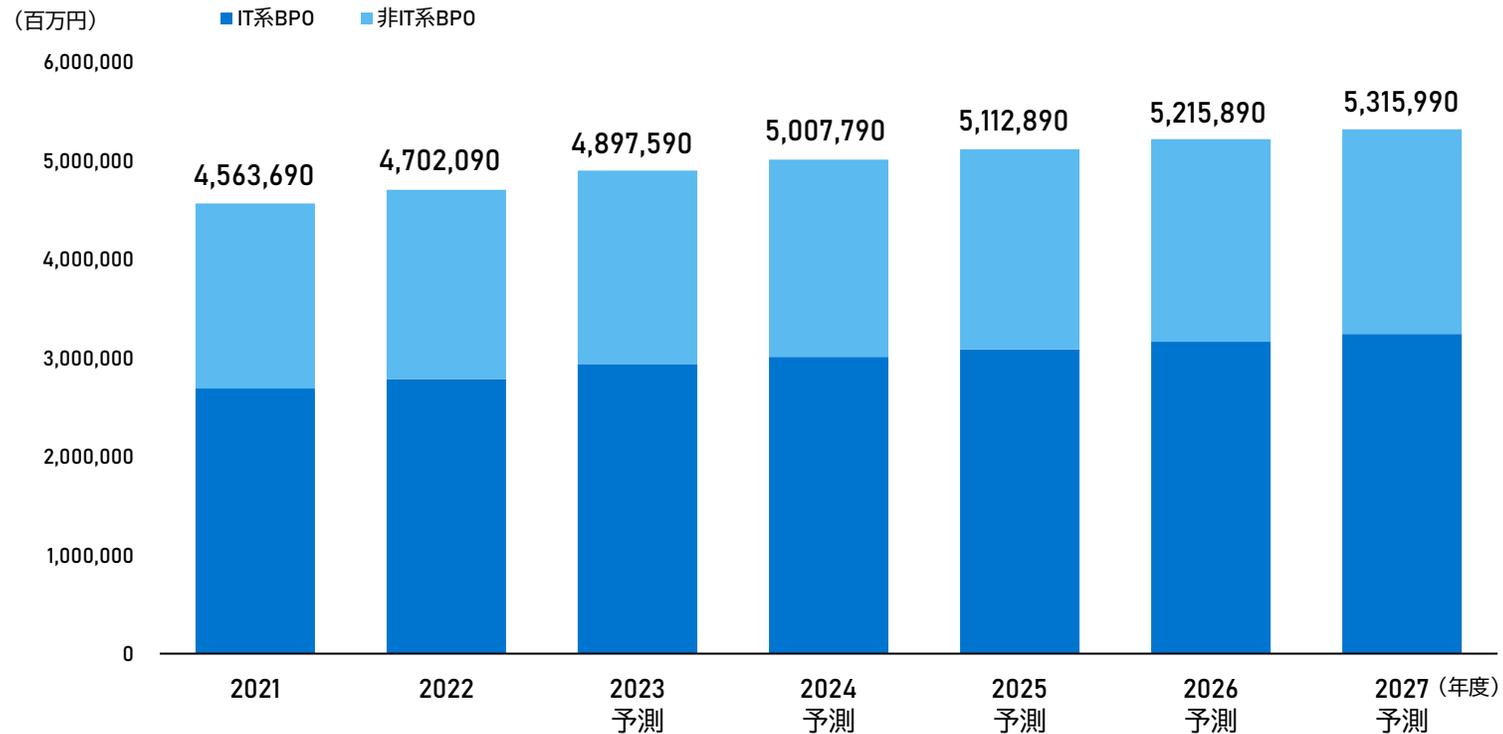
CAGR

数量	8%
金額	14%

世界的なEV拡大により
OEM各社ソフトウェア・
センサー・OSの投資増

モルフォの画像処理・画像認識AI技術において差別化できる領域にて顧客課題の解決を狙う
OCRを起点に、将来的にはBPO市場のうちデータエントリー業務への参入を目指す

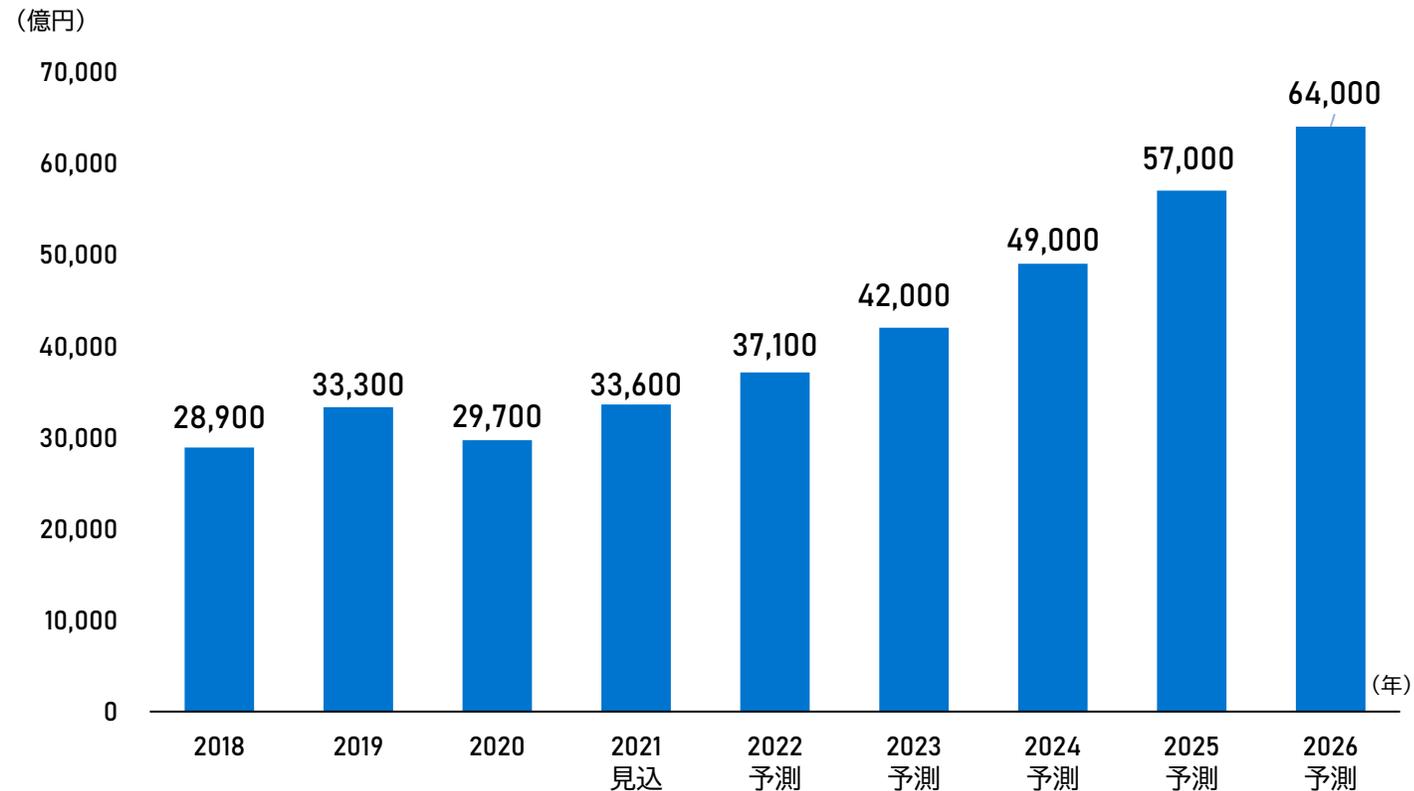
国内BPO市場規模推移予測



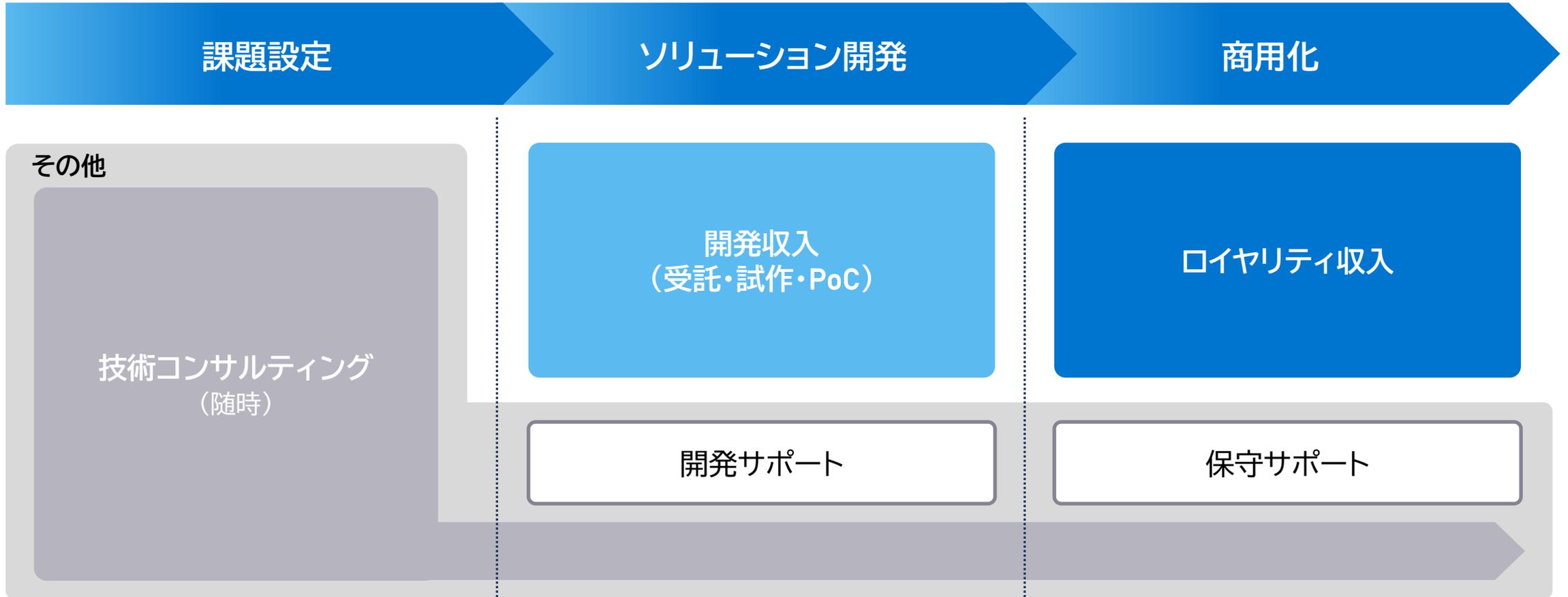
出典:矢野経済研究所 | BPO (ビジネスプロセスアウトソーシング) 市場に関する調査を実施 (2023年)
注1:事業者売上高ベース 注2:IT系BPOとは発注企業からシステム運用管理業務を委託され代行するサービス。非IT系BPOとはその他の業務を委託され代行するサービスとする。注3:2023年度以降は予測値

スマートシティの拡大や公共安全の関心の高まりと、監視カメラシステムの高度化により、AI活用が浸透。今後も画像解析AI分野の高い市場成長が予想される。

監視カメラシステム世界市場規模推移・予測



出典: 矢野経済研究所 | 監視カメラシステム世界市場に関する調査を実施(2021年)
注1: ベンダー出荷金額ベース 注2: カメラ、サーバ・エンコーダ、NVR/DVR録画装置、VMSソフトウェア、VCAシステム、その他システムを構築するハードウェア、ソフトウェアを対象として算出。但し工事費や保守メンテナンス料は含まない。



ソフトウェア・ライセンス事業により収益の積み上げを実現

ロイヤリティ収入

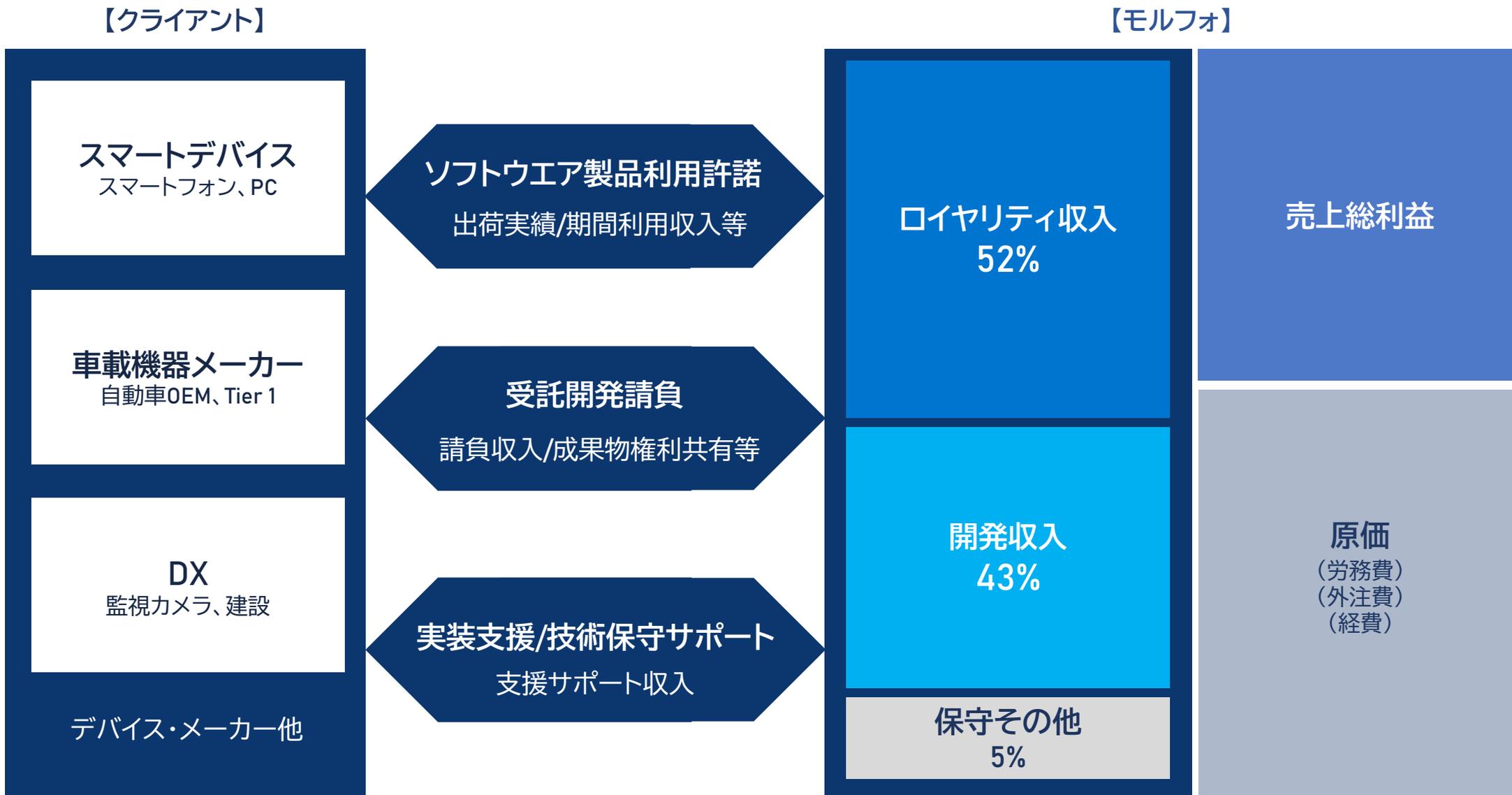
- 各メーカーへ当社グループのソフトウェア製品を提供
- 各メーカー製品の出荷台数/期間に応じたライセンス料收受

開発収入

- 新製品・サービス開発時に、各メーカーからモルフォが開発を請負
- 一定の条件を満たせば当社グループ単独でライセンス展開

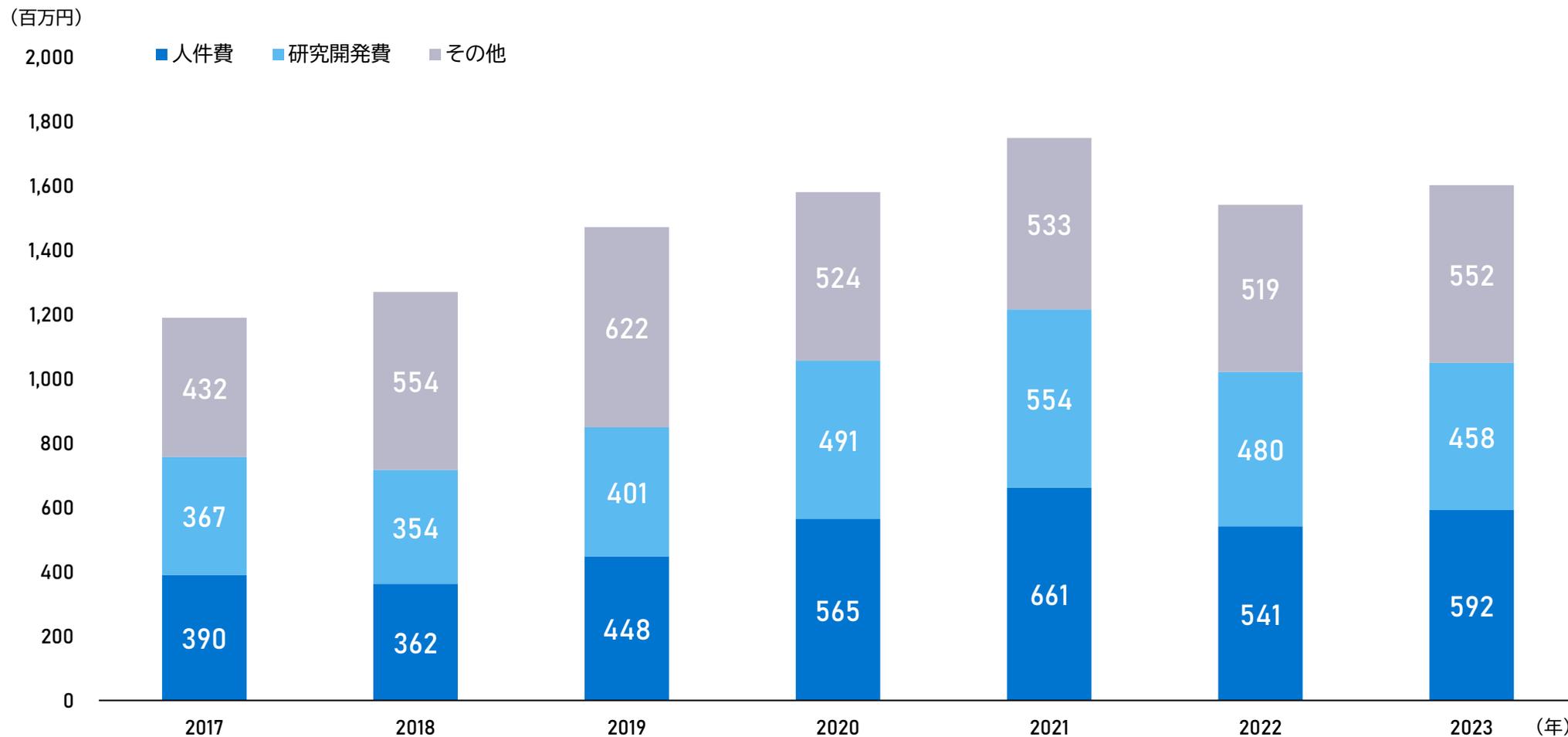
その他

- 各メーカーへ当社製品の実装支援を実施する開発サポート収入
- 各メーカーへ製品利用許諾後に技術的サポートを実施する保守サポート収入



※%は、2023年10月期 連結売上構成比

2023年10月期販管費は売上高の増加に伴い前期比60百万円(9.3%)増加。一方、効率的なR&D活動の結果、R&Dは前期比△22百万円(△4.7%)減少。ただし今後も積極的なR&Dを実施する。



主な競合先

競合先	A社	B社	C社
所在地	中国	スウェーデン	日本・東京都
主な競合領域	静止画	動画	車載組み込みソフトウェア・ライセンス
事業領域	コンピュータビジョンアルゴリズムと技術ソリューション提供 (スマートフォン、スマート車載、スマートホーム、スマートリテールなどの多様なカメラ付きAIoT(AI+IoT)デバイスメーカー向け直販)	スマートフォン、ボディーカメラ、スマートグラス、ドローン、ロボットビジョン&産業オートメーション、自動車、チップセット&スマートカメラモジュール、セキュリティ&監視、スマートウォッチ、オンラインビデオプラットフォーム等	車載カメラの画像から歩行者や車両などを検出する画像認識ソフトウェアの開発を手掛けている。
売上高	9,758百万円(2021年12月31日) ※2021年平均レート:1円=17.03円	809百万円(2021年12月31日) ※2021年平均レート:1SEK=12.81円	400百万円(2023年9月30日)
従業員数	693名(2021年12月31日)	39名(2021年12月31日)	30名

※ 各社の公表情報もとに当社にて作成

No	リスク項目	リスク内容	顕在可能性/時期	影響度	対応策
1	新技術及び新製品の開発	<ul style="list-style-type: none"> ① 既存技術の陳腐化 ② 競合製品の登場 ③ 製品投入の遅延 ④ 市場ニーズとのミスマッチ ⑤ 開発環境の急変 	中/中長期	大	<ul style="list-style-type: none"> • 独自の画像処理技術を強みとして、ディープラーニング(深層学習)技術を初めとした製品・技術開発への取組み • 有能な人材の積極的採用による開発技術部門の有能な人材の確保と育成
2	知的財産権	<ul style="list-style-type: none"> ① 他者による当社グループの権利の侵害 ② 当社グループによる他者の権利の侵害 	中/中長期	大	<ul style="list-style-type: none"> ① 特許の獲得と保護 ② 第三者の知的財産権を侵害しないよう十分な調査のもとにした製品開発
3	特定の市場／顧客への依存	<ul style="list-style-type: none"> • 特定市場の成長鈍化や後退 • 主要顧客との取引環境の変化による業績の変動 	高/短期	大	<ul style="list-style-type: none"> • 取引先との継続的で良好な関係の維持 • 様々な地域／用途／顧客への取引展開を加速しリスク分散
4	事業成長	中期経営計画「Vision2024」で設定している事業戦略が、経済環境の変化等の影響により計画どおり進捗しなかった場合に、当社グループの事業成長に及ぼす影響	低/不明	中	外部環境を注意深く観察しながら、高い技術力等の当社資産を有効活用して事業戦略を進捗させ、2024年10月期の黒字化を実現

リスクの詳細については、有価証券報告書「事業等のリスク」をご参照ください。

No	リスク項目	リスク内容	顕在可能性/時期	影響度	対応策
5	海外事業展開	① 中国などのカントリーリスク ^(注1) や海外紛争などの地政学リスク ^(注2) が顕在化した場合の、半導体の供給減少や車載ビジネスへの影響に起因する当社グループ及び顧客、協力会社等の事業の中断 ② 為替相場の変動の影響	中/不明	大	① 様々な地域/用途/顧客への取引展開、グローバルな経営体制の構築、情報収集体制を含む内部統制の強化 ② 為替リスクを低減するための為替予約などリスクヘッジ
6	提携及び買収	他社との事業提携・資本提携及び他社の買収において、期待した収益や成果を十分に得られなかった場合の当社グループの事業展開及び業績、財務状態への影響	中/中長期	大	期待される収益(リターン)、提携先のDD等を通じたリスク評価による、提携時の意思決定における十分な検討、及び提携・買収後も円滑な事業遂行を阻害する要因を早期に洗い出し対処
7	内部管理体制	① 海外子会社の内部統制の不備 ② 管理部門の人材確保を含んだ管理体制の不備 ③ 役職員の不正及び不法行為の発生	低/不明	中	海外子会社も含めた内部統制システムの適切な運用、充実、強化
8	情報セキュリティ	① 当社グループ固有の技術情報等又は当社グループが顧客から受領した技術情報等の漏洩等 ② ランサムウェア等による、当社グループが保有する技術情報等へのアクセスの遮断	中/中長期	大	・ 役職員の研修及びセキュリティ訓練などの実施 ・ エンドポイントセキュリティをはじめとする体制の強化

注1:カントリーリスクとして、法律・規制・税制変更、政治・経済情勢の変化、異なる商習慣等により、業環境が悪化するリスクを想定しています。

注2:地政学リスクとして、紛争・テロ等による特定地域が抱える政治的・軍事的な緊張の高まりが、地理的な位置関係により、その特定地域の経済又は世界経済全体の先行きを不透明にするリスクを想定しています。リスクの詳細については、有価証券報告書「事業等のリスク」をご参照ください。

No	リスク項目	リスク内容	顕在可能性/時期	影響度	対応策
9	自然災害及び感染症等	以下の事象の発生に伴う事業の中断 ① 地震及び台風等の自然災害、事故、火災等 ② 感染症の感染拡大	低/不明	大	① 事象の発生内容に応じて対策本部設置する等、グループ一体で対応を行われるよう体制を整備 ② 従業員の安全確保、社会的要請への最大限の協力、事業遂行の維持を目的として「新型コロナウイルス感染予防対策」ガイドラインを策定し、これに沿って組織的な感染予防対策を実施

リスクの詳細については、有価証券報告書「事業等のリスク」をご参照ください。

- 売上：ロイヤリティ収入の増加(前期比+287百万円)、開発収入の増加(前期比+200百万円)
- 営業損失：原価率の改善(前期52.3%、当期43.1%)及び販管費率の改善(前期77.1%、当期67.2%)
- 経常損失：主な損失は為替差益の減少△41百万円
- 親会社株主に帰属する当期純損失：利益構造の改善に加え減損損失計上額減少により368百万円改善

(単位:百万円)	2022/10期 通期連結業績	2023/10期 通期連結業績予想 (2022/12/9公表)	2023/10期 通期連結業績
売上	1,997	2,400	2,383
営業費用	2,585	2,650	2,627
営業利益	△588	△250	△244
経常利益	△510	△250	△192
親会社株主に帰属する 当期純利益	△668	△329	△300

5期ぶりの黒字転換を達成し、さらなる成長を目指す

- 海外ではスマートフォン・PC向けのロイヤリティ収入が引き続き拡大する見込み
- 国内では車載・DX向けの受託開発収入の伸長が見込まれ、将来のライセンスビジネスに繋げていく
- コストを適切にコントロールすることで黒字化を達成し、来期以降に高利益率な事業の実現へ

(単位:百万円)	2023/10期 通期連結業績	2024/10期 通期連結業績予想	増減
売上	2,383	2,900	+516
営業費用	2,627	2,700	+72
営業利益	△244	200	+444
経常利益	△192	200	+392
親会社株主に帰属する 当期純利益	△300	139	+439

本資料は、情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、当社の有価証券の買付けまたは売付け申し込みの勧誘を構成するものではありません。

本資料に含まれる将来予想に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。また、これらの将来予想に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。

別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。

当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

本資料のアップデートは、2025年1月下旬ごろを目途として開示を行う予定です。

A large, intricate wireframe butterfly graphic on the left side of the slide. It is composed of numerous white dots connected by thin white lines, forming a complex, geometric structure that resembles a butterfly in flight. The background is a solid blue color with a diagonal split.

お問い合わせ先
コーポレート戦略部 IR担当
E-Mail: m-info-ir@morphoinc.com